

『「フェイク(偽)ニュース」の脅威とこれからのWebリスク対策』

文 佐々木寿郎

text by Toshiro Sasaki

昨年から今年にかけて、Web業界が「フェイク(偽)ニュース」に揺られています。

世界最大規模のSNS^(※1)であるFacebook(フェイスブック)は、ロシアがフェイスブックに計10万ドル(1100万円)もの費用を投じて政治広告を購入していたという調査結果を受け、偽のアカウントや偽の広告に対する規制を強めています。

また、Google(グーグル)は検索エンジンのアルゴリズムを変更し、悪意あるフェイク(偽)ニュースページのランキングを修正する大規模アップデートを行いました。

世界的な企業によるこれらの「フェイク(偽)ニュース」対策は、ともすると大げさに見えるかもしれません。しかし、三月九日のサイエンス誌で発表されたMIT^(※2)の研究結果によると、「フェイク(偽)ニュース」の方が「真実」よりもSNSにおいて拡散されやすいという見解を示しており、それは対策なしに「フェイク(偽)ニュース」を自然淘汰することが非常に困難であるこ

とを意味します。

加えて、AIや映像技術の進歩が「フェイク(偽)ニュース」の脅威に拍車をかけます。たとえば、世界的なリーダーのスピーチ動画と音声サンプルを使えば、彼ら自身が話しているかのような映像をねつ造できる。そういった技術はすでに開発されていますし、個人情報やSNSなどの履歴から本人の嗜好や言葉遣いを分析し、あたかも本人が書いたかのような文章を作成することも、AIにかかれば造作もないでしょう。

これからネット上の「嘘」と「真」がますます曖昧になっていく中で、企業が何も対策をしないことは非常に危険です。突如として発生した「フェイク(偽)ニュース」によって、取り返しのつかない損害を被る事態も十分にあり得るのです。

そのような悲劇を防ぐため、我々のようなWebリスク対策業者が果たす役割は今後ますます重要になります。たとえば、弊社では「炎上保険」という、炎上時に保険金を受け取ることができ

るサービスを発表しました。いづどんな形でネット上の悪意に曝されるか分からないからこそ、Webリスク対策においても事前の備えが必要になってきているのです。

(※1)ソーシャル・ネットワーク・ワーキング・サービス。人同士の社会的な繋がりを維持・促進するオンラインサービスを目指す。
(※2)「米マサチューセッツ工科大学」

Profile

シエンプレ株式会社 代表取締役社長
1976年、長野県生まれ
2009年 シエンプレ株式会社取締役に就任し、ネット上の風評被害対策、webリスク対策を立ち上げる
2012年 同社代表取締役に就任
2014年より警察庁のサイバーパトロール業務を受託し、
2015年には業界団体一般社団法人WEBリスク対策事業者協会を立ち上げ、代表理事に就任。業界の健全化に取り組んでいる

SIEMPLE

